



針葉樹會報

通卷 第五十六號

特輯 家族大會記事

家族大會の記 三角

薄ら寒い雨模様なので多分中止になるだらうと、車の中で五十嵐と相談した、集った者は皆で神宮外苑でも一廻りして、如水會館で中食をとり、快談しようぢやないかと。處が早々馳けつけた連中既に座を占めて大はしやぎだったには一驚した。

一番心配して居つたのは、長女の溪子が頗るきかないので誰彼なしに喧嘩でもしやしないかと云ふことだった。幸無事に歸途に着いたのでほつとしてゐた處遂に車の中で掴み合ひの一戦を戦はしてしまつた。それでも相手が岡山の徹君だったのでよかつた。多分近ちゃん處の隆雄君とやりやしまひかと思つてゐたのだが、彼氏おやぢに似ず誠ににはかみやだったには驚いた。

此の日最も哀をさめめたのは獨身組だったらう、何しろ多勢に無勢だから。まして仲の良いところも見せつけられたんだもの、併し又彼等に言はせたら、赤ん坊をおんぶさせられたり、おむつ入れのバッグをぶらさげさせられた姿は哀れなものだと言つてゐるかも知れぬが、僕に言はせたら斷じて負け惜しみの言ひ分だと言ひ切る。

最後に家族大會の催し方法に就いて提議したいのは、秋には如水會あたりでやつたら如何かと思ふ。何しろ皆の子供が未だ小さいので一家全部で出かけるには、武州御嶽程度でも山だと一寸困る。子供をしよはされていかん、自分達丈ならよいが學生に迄おむつ入れを持つて貰ふ様では、他人に迷惑をかけることになるから。又國立なら野つ原で遊べて良いんだが、此處でやると學生にいい仕事をして貰ふことになるので、此れも少しお氣の毒です。それで如水會館を候補に擧げる次第です。狭しとも子供は芝生で遊ばせて、奥様方は日本間でおしやべり、おやぢはバーで一杯もいかゞ。

次に本大會に於て集つた面々はいつもの顔振れで、見たくもない(と云ふと誠に失禮だが)連中ばかりで新進のお二人連れにお目にかゝれなかつたのは實に残念だった。カビが生えてもお氣の毒様だから是非出て貰ひ度い。若し今後二人で出て來なかつたら舊惡露見することを恐れてゐるか、又は尻の下に敷かれて居る者

と断定するも異議なきや。

（久々に増山から便りあり、今度は僕の悪口を書くから觀念して居る様にとのこと。人もあらうに辛辣、痛烈なる批判を下す彼氏から豫め斷わつてやられるのだから、並大抵の悪口じやなからうさ此んな事を書きながら心配でならん。併し先に書く方は損なんだよ。先の出様によつては一月あの手この手と考へてやれるんだから。皮を切らせて肉を切るの手もあるのだから）

増山清太郎

子供同志で喧嘩を始めたなら、グロツキーになる迄やらせること親は決して手を出さないこと、と提議したのは、たしか松木氏だが、歸りの電車の中で、徹君と溪子さんの拳闘を、物にならないうちに引分けてしまったのは、さて、誰だつたらう？

奥多磨清遊中の傑作

ク マ

圓タクで大周章にて新宿へ着いたが誰も来てゐない、馬鹿正直な者は馬鹿を見る、尤もそれで馬鹿といふのかも知れない。AK氏がスマートなハッピを着て悠然とやつて來た、近頃にない寒さだ。天氣豫報は「午後になり風雨強かるべし」皆の出足を澁らせたのも大半は之が爲めだつた。

遠來の客はトンちゃん一族、従つて次の様な事件の起きた事も亦當然と言はなければならぬ。

……ねえ、あなた、村尾さんの奥さんてどの方なの……村尾さんの奥さんの前に腰をかけてゐたトンちゃん奥さんが村尾さ

んの奥さんにこう聞いたといふ譯、……ねえペン公の山の神つてどれ？なんてやらなかつたのは近頃での傑作、尤も蔦子さんがこんな口の悪い人であるといふ譯ではありませんが。……

次は處變りまして社殿の方で二世連のやつた傑作。

……五月蠅い茶店を通抜け、二三段上ると廣場になつてゐる。その左手の所に「手洗場」がある、神社の入口には大概あるから格向は云はなくてもいゝと思ふ。岡山だとか大阪、神戸を知つてる小さいのが二人、何思つたか手洗場の一段高い所に仲よく立つて筒口そろへてやり出したといふ譯。驛の便所を御存知の二世「手洗場」をトイレットと思つたのは無理もない、臭みをためないやうに此の手洗場にも水がシヨツチュー流れてゐますからね……

（一一、五、四）

蟹の泡

平家蟹

御嶽行家族大會を評して、日頃留守番ばかりさせてゐるワイフ（新婚は例外）及家族を簡単に喜ばせておいて、將來の單獨行動を有利に導こうとする手である、と解釋することは、些か曲解である。針葉樹會員の人間離れのした親睦さを、その家族迄擴大しやうと云ふのが、眞の目的であると御承知願ひ度い。

人間離れと云へば、先月の會報に、熊と狸の那須旅行の記事があつたが、その中の天候に關する珍説を讀んで驚いた。常日頃つき合ひ做れてゐる會員諸兄は、恐らく信ずることもあるまいと思ふが、實際に彼等と行動を共にした經驗ある者ならば、噴飯に

値する謬説なるを知るであらう。

天候といへば、家族會當日の天候は、陰陽の説で完全に説明出来る。氣象臺で雨と決めて呉れたのに、殆んど雨が降らなかったのは、参加者に婦人が多かった爲である。雨と婦人は何れも陰性である。同性は相反撥するとは中學の物理で習った通りである。反對に男が多かつたら、勿論雨で悩んだことであらう。陰陽の説の詳細は、鈴木牧之の「北越雪譜」といふ本を讀んで貰ひ度い。

遅れてやつて來ても、裏宿の孫兵衛氏のことだから必ず追付くこととは思つてゐたが、御嶽の登り降りのあの女房子供赤ん坊といふ珍らしい行列の中に、孫兵衛氏一族が居なかつた事は、どれ程淋しかつた事か。我等の仲間から、孫さんを除けることは出来ない、と云ふので、御嶽神社の御札も、仲間に加へてちゃんと貰つて置いた。歸りの針葉樹會の貸切電車の發車間際に、その孫さんが追付いて、辛くも間に合つたといふのも、吾々の心持を神が酌んで呉れたのであらう。聞けば、孫さんは一家族を引具して吾々を求めて御嶽山中を駆け廻つた由。さもありなん。

子は親に似る。熊の子は子熊であり、狸の子は子狸であつて然るべきだが、必しも全くそうとは限らないといふ事實を發見して會の一員として喜びに堪へない。大きく云へば、狸も熊も誰も彼も、皆鳶が鷹を産んでゐるのだ。優生學の本を讀めば、理由は判

るだらうが、まあ讀まない事にしやう。第二世だけの針葉樹會が出来たとしたら、どんなに高尙な會となるであらうか。

感謝

矢作清子

此の間の家族會について何か書く様にとのお葉書をいたゞいてから未だ一行も書かない中に、有恒が百日咳を患つて毎日少しも手が離されませんものですから、心にかゝり乍ら大變遅くなりまして申譯ございません。

右の様な次第で纏つた感想なぞ書けさうにも御座いませぬので（勿論さうでなくても書けないことに變りはない様ですけれど）只お禮の言葉だけをのべさせていたゞきます。

あの様に楽しく和やかな會をお催し下さいました幹事様に心からお禮申し上げます。

又會員の皆様御家族の皆様には大變お世話になりました有難うございました、紙上から厚くお禮申し上げます。

あの日お集りのお子様方にどんなにか楽しい思ひ出となつて、何時々迄も残ることだらうと思ひますと心から微笑ましく、これから先長く續けていたゞきたいものと、虫の良いお願ひを最後に筆を擱きます。

かんじたまゝに

坂本米子

針葉樹會の新しいプランとして、家族會の第一回ハイキング御嶽行のメンバーの一人に、思ひがけず私も加へて頂けると知つた時、義兄と姉を除いては、どなたも御近づきのない御顔ぶれの中

にまじつて、窮窟じやないかしら？こんな小さな不安、が一寸ばかり私の頭をかすめて通つたのでしたが、それは私の全くの取越苦勞に終つて、晩春の一日を愉快に過せたことは、今思ひ出してみても楽しいことです。

すべての現實から一步も離れては生活できない今の社會狀態では、比較的「單純」の良さが意識的でなく得られるなんて全くまれにしかないことです。今の時代での幸福とは、平和、明朗、單純、この三つを、意味してゐるんじゃないかと思ふのですが、併しこの私の人生觀に反比例して今の時代に少しでも良心的めざめを持つて生活してゐる人間に、之等三つのうち、一つさえも完全に自分の生活の中に發揮してゐる人が全く稀であるのをかんじさせられます。

にも係はらずこの三つがどんなに人間の生活に必要なかは階級を問はず、生活を眞面目に考へてゐる人達へ切實に感じさせられてゐる處のものでありませう、しかも自分の生活の中になかなか取り入れることのできない「矛盾」が、私達の前にあらはれ出て來てゐます。

自棄的に人生を渡る人、氣分のまゝに生きて行ける人、あらゆる點から自由を獲得しての生活を持つ人以外には、大なり、小なり、この矛盾に苦しんでゐる人が何と多いこととせう。けれども自分以外に、第三者の眼にまで何時も、青白い溜息の顔や、氣持を、表現してみせることは近代人らしくなく、意味ないことだと思ひます。

こうした過渡期的時代に、大人の生活、または私達のやうに若人の生活を、幾分でも、せめて、第三者にだけでも、明るい感じよいイムプレッションを與えるやうに努力するのこそ、私達が、生きてゐる自己を少しでも意義づける裏付けともなりませう。

さうしてこの心が、まへとは、人生へのあきらめを、ほどよく持つてゐることじやないでせうか。私は之が一番、心の平和な生活への近道だと信じてゐます。

けれど、かうした心がまへだけは持つてゐても、さて簡單にはこの境地に到達した、地盤を持ちえないのが人間共通の弱さでせう。

そこで生活へのめざめを持つ人達がひとしく求めてゐるのは、思ひきり、子供に返つたやうに、單純に朗らかな「一時」を、わづかでいゝ自分のものにしてみたい、こうした氣持のあらはれがハイキング、ゴルフ、旅行、ピクニックなどの今方々で盛んに歡迎されてゐるのでうなづかれませう。

そして、今度の針葉樹會の家族會の新しい試みの成功をみても之からも度々この試みを充實して居つて、私達の生活を、矛盾や心の負擔から解放され、明るく朗らかに、人生を送る糧にしたいものだと思ひます。

一九三六・六・二〇

付記

義兄にすゝめられますまゝ、おくれればせながらもペンを手にしましたものゝして、思ふやうに書けません。

拙文で御ゆるし下さいませ。

近藤恒雄

何時も針葉樹會に於ける會員各員は、全く他人には見せも聞かせも出来ぬ位勇敢にして、無邪氣なるもので、家の女房に見せる時は忽ち一家の主人たる權威を失ふ事間違ひなし。然るに何んぞや、針葉樹會家族大會とは！而かも提唱者が熊さんなんであるからあきれる。

いや全くあの日の參加氏の自重したる事たるや、見るもあはれ聞くと涙の種ならざるはなし。如水會の席上に於ては身はいやしなくも一家のあるじ、女房何者ぞ、である。

然るに當日は是等暴君は女房の後に唯々諾々、いとも圓滿なる笑顔をつくりて二世を背負ひ、三世を抱き、苦心慘憺御嶽神社に詣でたり。

斯く迄して御機嫌をとりやがての山行の時に家庭内に於ける政治的解決の資にせんと、血涙を吞んで努力せるを見る時泣かざるはもぐり登山家と云ふ可し。

若き學生登山家諸兄よ。

兄等も何れの日にか斯くも哀れなる姿となりて、御嶽に詣でる日が来る可し。其時而も敢然として家族大會に参加する勇氣ありや！！

立教のヒマラヤ遠征とは

クマ

辻莊一氏と云へば、立教山岳部の部長さんといふ許りでなく、「登山」といふものに對し獨逸語的理論づけに誰よりも秀いで、文章なども實にガツチリした偉い人物、山に對しては何處までも敬虔であり、思想家としても確りした根柢を持つてゐる人格者である——と今までは思つてゐた。

然し今夜のヒマラヤ遠征（彼氏は探査といつてゐた）の動機目的に就ての御講演を聞いて、全くガツカリして了つた。あれぢや町内の山岳會の會長さんより一步も出ては居ない。之は私許りぢやないと思ふ。私は最初の文句を聞いて、それから先の事を聞くのが嫌になり、歸つて了ふかとも思つたが、後に活動寫眞があるので、實は我慢して終りまで席に腰かけてゐた様な仕末だつた。

彼等に云はしむれば日本には、此の廣い日本には彼等の登る山がなくなつたのだ相だ。困難と闘ふ處に登山の本質があるのであつて、斯くの如き山がなくなつた以上吾々はヒマラヤへ行くより他はない、といふに到つては全く呆然たらざるを得ない。彼等は一體何處の山へ登つたのだらう、北岳のバットレスはどうだつたのだらう。ナンダ、コットの東北稜がどれだけ冬期のバットレスより困難であるか、實際行つて見なければわからぬが、私には彼等の成功が危ぶまれてならない。第一云ふ事が大き過ぎるし或る意味から云へば日本の山岳そのものを侮辱してゐる事之より甚しいものはない。

さてそれから先は泣事と申譯けの連続である。日本の實業家は
 こういふ事に理解がない、それは全くだ、然し資金が集まらな
 かつたら不自由してまでも今年行かなくともよさうなものぢやな
 いか、はじめから單なる旅行や氷河見物の積りなら行かぬ方が増
 した。あゝいふ處ぢや死に度くない、吾々が死んだら次にヒマ
 ヤへ遠征する氣運を阻害する事になるから、適宜の所から引返
 て来る積りだからつて、全く常識のある人のいふ言葉と思ひます
 か。マロリー、アーヴィン等が行衛不明になつて英國では遠征に
 齟齬を來してゐませうか、英國と日本とでは事情が違ふといふ
 も知れない、然し最初に行くパーテイが船に乘らぬ前からこんな
 意氣込みぢや情ない極みだと思ふ。

それに自分もせめて一生の思ひ出に一度ヒマヤの姿を見て置
 き度く最初は一行に加はる計畫であつたが、遂にそれも儚い夢と
 化して了つた、といふ。それもいゝがその原因を寄附の不足に
 もあるかのやうな云ひ振りだつた。他人の一生の思ひ出に行つて
 貰ふ爲めに貴いお金を寄附するやうなお人好しが一體日本に何人
 居ると思つてゐるのだらう。余り日本人を甘く見ない方がねえ、
 と云ひ度くなる。

兎に角結論としてあんな様な遠征隊の氣持ぢや到底成功は覺束
 かないし、せいゝ途中で食料でも盜まれて、スゴ／＼引返すの
 が關の山ぢやないかと思ふ。

ヒガ目でこんな事をいふのぢやないがも少し英國や獨逸邊りの
 エックスペディションの事でも研磨してから行かれた方がいゝの

ぢやないかと思ふ。(一一、六、四 講演を聞いたその晩)

北海道から

奥野綱重

帶廣へ來てから全く寧日なしである。何しろ日本全國通運界を
 震駭せしめた大事件の後を引受けての奮闘約八ヶ月、針葉樹各位
 にも疎晉に打過ぎてゐる。

漸く新しい會社も目鼻がついて、目下特別の事情なき限り、そ
 この事務として二三年頑張る積だが、前途多事多難だ。

一度東京へ行きたい、又、用事もあり鐵道省のバスも持つてゐ
 るが、暇がない。

酒許り飲んでゐるので、肥つて來た。十七貫位になつた。

山岳部報告 (五月)

記録

(1)市道山、陣場山(新入部員歡迎登山)(五、三)小林、望月、鷺
 崎、榎本、岩崎、原、毛塚、齋藤、(以下新入生)水田洋、諸橋
 洋一、宮城恭一

(2)富士山(五、二—三)小谷部、森川、大塚、日江井

(3)立山、劍岳 A班(五、九—一七)小谷部、和田、岩崎

B班(五、一〇—一七)森脇、松浦、關根

(4)甲斐駒ヶ岳(五、一六—一七)小林、鷺崎、大塚

(5)鹿島槍荒澤奥壁登攀(五、二七—六、二)小谷部、森川

荒澤奥壁ダイレクトルートの初登攀に成功す。奥の岩壁下より
 北槍迄約九時間近く要し困難多きルートであつた。

日誌

○定期部員集會 五月一日(金) 於國立部室

出席部員(本科七名、豫科二名)

今年度の集會日を毎週金曜午後三時よりとし、國立、小平隔週に行ふ事とした。

○定期部員集會 五月八日 於國立部室

出席部員(本科九名、豫科八名、専門部一名)

岩登の事、五月の富士の事等を話す。

○定期部員集會 五月十五日 於小平部室

出席部員(本科五名、豫科五名)

○定期部員集會 五月廿二日 於國立部室

出席部員(本科七名、専門部二名)

今夏は穂高涸澤に天幕を張り、出来るだけ全部員が集つて約一週間滞在し、後思ひ／＼の處へ散らばるゝ云ふ様なことに話がまとまつた。

○定期部員集會 五月廿九日 於小平部室

出席部員(本科三名、豫科六名)

豫科生に今夏の計劃を發表し、併せて涸澤附近の説明をなす。

新入部員紹介

水田 洋君(豫一) 豫科南寮、赤坂區青山南町六ノ一〇八

記録

○右左口峠・阿難坂越(五月廿四日)

中川孫一

五湖めぐり(會社の)新コースとして單獨で甲府から二つの峠を越えて精進湖へ出てみた。所謂ハイカーの片影だに見ない此秘境は、村も、人も、山路も、素朴、清淨、殊に鬱蒼たる喬木帯を急登する阿難坂は、登り切つて豁然と開ける岳麓の展望がすばらしい丈に、極めて印象が深かつた。

○吾妻山と磐梯山

増山清太郎

六月五日 米澤―吾妻山―早稻澤

六日 早稻澤―長峯―中ノ湯

七日 中ノ湯―磐梯山―猪苗代―東京

三月に磐梯山に遊んだ時、頂上から雪の切目に、雪の檜原湖と吾妻山を望んだ、その印象的な眺望にあこがれて、此度は米澤から西吾妻を越えてみた。

雪は多く、寒さは冬のやうで、檜原湖の水面に残雪を見た。人情は素朴、風光は幽麗、都人士の息のかゝつてゐないのが何より嬉しい。

磐梯山の爆裂火口は、辻村太郎氏の説に従へば、日本獨特の景觀の由。暢氣にブラツクには、良い所だ。

消息

宇佐美敏夫君 中島米太郎氏長女清子嬢と結婚、四月二十四日華燭の典を舉ぐ。更にオリンピック、ホツケーチームのコーチとしてベルリンに赴く。

河相 薫君 約半年の豫定にて歸朝。兵庫縣揖保郡半田村、

兼松羊毛研究所

小柳 二郎君 大森區新井宿、瑞雲閣アパート（電、大森一〇

三六）に轉居

増山清太郎君 東京貯蓄銀行本店に勤務

芋川 稔一君 目黒區三田一九七 石塚方へ轉居

吉澤 一郎君 日本團體生命保險株式會社（日本工業俱樂部内）

に勤務

以上

定例集會

六月十五日（月） 於如水會館

學生諸氏より、最近の山行に就き簡單なる説明あり。

編輯後記

『晝間編輯屋で骨身を削つてゐるのに、また針葉樹會報の編輯まで遣らされては、とても堪らぬ』と幹事就任を何度も辭退した小生も、前記の通りソロバン屋に轉業すれば、辭退の理由も自然消滅の態です。そのかばり、今まで會員が少し多勢で山行を試みると、小生が會計係をする習慣があるらしいが、これからに平に御免を蒙りたい。

閑話休題、本年は會計の都合で、昨年より會報を縮少します。昨年は滞納會費を整理して、尨大なる記念號を出した事になるのですから、本年は幾分縮少して毎月八頁に限る事に致しますから、左様御承知下さい。と言つても決して投稿を遠慮せよ

と云ふのではありません。言ひたい事を言ひ、書きたい事を書くのは、本會の憲法で、會計の都合などで、俄に變改を許しませぬ。從來通りに自由に書いて戴いて八頁に旨く收めるのが、編輯者の腕と申すもの、幹事が換つたとて、會報そのものゝ變る筈は無いのですから、今後、にぎにぎしく御投稿の程を願ひ申上げます。（増山）

夏山本部

夏期休暇中山岳部本部を吉澤一郎氏宅（芝區田村町二ノ八）に置く。夏期登山各班責任者及び休暇中任意に登山を爲す部員は出發及び歸還に際しては必ず右本部及び部長木村惠吉郎教授に報告せられたし。

豫告

八月の例會は左の通り。御馳走が出る様な形勢ですから、奮つて御出席下さい。

日時 八月十四日（金）午後六時
場所 芝區田村町一ノ九 元園軒

會報八月號原稿〆切は七月二十日、發行は八月初旬の豫定。